

5 本時案 (第一次 1 / 1)

(1) ねらい  
 いろいろな四角形を図形の構成要素に着目して仲間分けをすることができる。

(2) 準備  
 形カード、大版用紙、マジック、ふりかえりカード

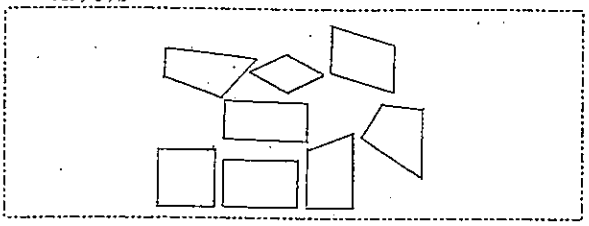
(3) 学習過程

5 本時案 (第二次 2 / 5)

(1) ねらい  
 商の見当ををつけたり修正したりしながら (2 位数) ÷ (2 位数) で商 1 けたの計算を筆算ですることができる。

(2) 準備  
 発表ボード

(3) 学習過程

教師のかかわり	学習活動・内容	前の学習	前の学習	(2 位数) ÷ (2 位数) で仮商修正のないけいさんの仕方を考えた。	教師のかかわり
<p><b>発</b> 「いろいろな四角形があるけどその特徴に注目して仲間分けができるかな？」</p> <p><b>て</b> 黒板に拡大した図形を一つずつ貼ることで本時の課題が明確になるようにする。</p> <p><b>て</b> 誰にでも伝わる理由付けのもとに仲間分けをすることを確認する。</p> <p><b>発</b> 「仲間分けするのにそれぞれの図形の同じところを見つけてみるといいね。」</p> <p><b>て</b> 自由な発想で仲間分けができるように作業を見守るようにする。</p> <p><b>て</b> 仲間分けをした理由について自分の言葉で大版用紙に書けるようにする。</p> <p><b>評</b> 図形のいろいろな性質に着目して仲間分けをすることができたか。</p> <p><b>発</b> 「どうしてそのように仲間分けをしたのか理由がきちんと友だちに伝わるように発表しましょう。」</p> <p><b>音</b> 仲間分けの方法について自分の言葉で友だちに伝わるように話す。</p> <p><b>評</b> 自分の仲間分けの方法について図形の性質に着目して、自分の言葉で話すことが出来ているか。</p> <p><b>て</b> 仲間分けをしてみて疑問に思ったこと次の時間に学習してみたいことを中心に書けるようにする。</p>	<p>1 本時の課題をつかむ。                  いろいろな四角形を仲間分けしよう。                  ・四角形</p>  <p>2 大版用紙上に仲間分けをする。                  ・性質に着目して仲間分けすること</p> <p>3 互いの仲間分けの方法について考えを出し合う。                  ・直線の長さ                  ・角の大きさ                  ・向かい合う辺の関係</p> <p>4 今日の学習のふりかえりを書く。</p>	<p>つ つ か か む む</p> <p>考 え る</p> <p>考 え る</p> <p>ま と め る</p> <p>ま と め る</p> <p>広 げ る</p> <p>深 め る</p> <p>ふ り か え る</p>	<p>1 問題文を読み、計算の仕方を考える。                  89 ÷ 28 の計算の仕方を考えよう。                  ・商の立つ位                  ・仮商の立て方                  ・仮商修正</p> <p>2 互いの考えを出し合い、(2 位数) ÷ (2 位数) で仮商修正のある筆算の計算方法について確認する。                  ・仮商修正</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>予想される仮商の立て方</p> <math display="block">\begin{array}{r} 4 \\ 28 \overline{) 89} \\ \underline{112} \quad \text{ひけない} \\ \quad \quad \quad ? \end{array}</math> </div> <p>3 仮商修正 2 回の計算、教科書の練習問題をする。                  ・仮商修正 1 回                  ・仮商修正 2 回</p>	<p><b>発</b> 「前の学習と同じやり方でできるかな。違うところはどこかな。」</p> <p><b>て</b> 商の見当がつけられるように、前時で学習した (2 位数) ÷ (2 位数) で仮商修正のない筆算のやり方を掲示しておく。</p> <p><b>て</b> 考えたことを友達に伝えられるように発表ボードに書くようにする。発表ボードには、筆算のみを書くようにする。</p> <p><b>評</b> 既算の考え方を生かし商の見当をつけることができたか。</p> <p><b>発</b> 「見当をつけた商が大きすぎる時は、どうすればいいのかな。」</p> <p><b>て</b> 仮商を立てる段階に焦点をおいた話し合いになるようにする。</p> <p><b>音</b> 自分の考えたことを友達に分かるように話す。</p> <p><b>て</b> 友達の考えたことと自分の考えたこととの相違点に着目した話し合いになるようにする。</p> <p><b>評</b> 商の見当の付け方について自分の考えたことを友だちに分かるように伝えることができたか。</p> <p><b>て</b> 今日の学習を生かして仮商修正が 2 回の計算や様々な練習問題に取り組めるように学習の跡を黒板に残しておく。</p> <p><b>評</b> (2 位数) ÷ (2 位数) で仮商修正をしながら筆算で計算をすることができたか。</p>	
それぞれの分け方の同じところ、違うところをもとに図形の性質について焦点化していく。	後の学習	後の学習	(2 位数) ÷ (2 位数) で、除数と被除数を四捨五入して仮商を立てる計算の仕方についてまとめる。 立てた仮商が小さいときの仮商修正の仕方を考える。		